

発表スライドの作成と、プレゼンテーション

■ 使用する機器、アプリ等

i Pad、ロイロノート

■ 学習のねらい

クラスメイトに対して、「お気に入りの場所と、将来行ってみたい場所」について伝えるために、プレゼンテーションを行い、その場所についての情報や自身の考え、気持ちなどを英語で話して伝えることができる。

■ 単元の流れ (全 4 時間)

学習活動	
第 1 時	単元の目標を把握する。 発表をするために便利な表現を学ぶ。 ペアで自己表現活動を行う。
第 2 時	発表に関わる情報をインターネットで検索する。 発表原稿をプリントに記入する。 発表原稿の音読練習を行う。 ペアで自己表現活動を行う。
第 3 時	ロイロノートのカードを用いて、発表スライドを作成する。 発表原稿の音読練習を行う。 ペアで作成したスライドを用いてプレゼンテーションの練習を行う。
第 4 時	1人ずつプレゼンテーションを行う。 学習を振り返る。

■ ココで ICT を活用！

動画 1

発表スライドを作成する

ロイロノートのカードにキーワードを書いたり、説明を行う場所の写真や地図を張り付けたりして、スライドを作成する(動画1)。

動画 2

ペアでプレゼンテーションの練習をする

本番の発表の前に、タブレット端末を見せ合いながらペアで練習を行う。

気付いた点をフィードバックしあうことで、発表の改善につなげる。(動画2)



動画 3

プレゼンテーションを行う

発表スライドをスクリーンに投映して、タブレットを操作しながら、発表を行う。(動画3)



■ ICT 活用のメリット

WEB 検索を活用することで、外国語学習の興味・関心が高まる

従来は発表スライドなしでプレゼンテーション等を行っていたが、1人1台端末があることで、発表に向けて、WEB検索をしながらスライド作成をすることができた。WEB上で、テーマに関する写真を探したり、情報を調べる作業を通して、生徒たちの外国語学習への興味・関心が高まった。また、発表を聞く側の生徒も、高い興味・関心を持ってクラスメイトの発表を聞くことができた。

スライドの使用が、英語で発表をする際及び発表を聞いて理解する際の補助となる

発表時はスクリーンを見ながら説明することができるため、従来は読み原稿をそのまま読んでいた生徒も、自身で作成したスライドの写真やキーワードをヒントにしなが、原稿に頼ることなく、自分の言葉で説明することができた。また、発表を聞く側の生徒も、スライドの内容を一助とし、理解することができた。

■ 本実践での工夫

スライドは写真や地図をメインに

スライドに文字情報を多くすると、発表者はスライドの文字をそのまま読んでしまいがちになり、聞き手にとってわかりづらい発表となってしまうため、スライドの文字情報は最小限にとどめ、お気に入りの、あるいは将来行ってみたい場所に関する地図や写真をメインとしてスライドを作成するよう指導した。

タブレット端末を使用しながら、本番に向けたペアワーク

本番で使用するスライドをタブレット端末に表示させ、ペアを変えながら、繰り返しプレゼンテーションの練習を行うことができるのは、1人1台端末環境ならではの活動である。生徒たちはお互いの画面を見せ合いながら、楽しく、発表の練習をすることができた。

■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

授業の進め方を大きく変えるのではなく、これまでの授業のどの場面にICTを活用すれば、よりよい学びにつながるか、という発想で実践を行った。実践の初めのほうは、生徒は端末やアプリの使用に慣れていなかったため、まずは基本操作に慣れさせることを目的として、スモールステップを重ねた。生徒が、徐々にICT機器の使用に順応し、調べる作業や、クラスメイトに伝えることを楽しく行っていたことが印象的であった。

生徒の振り返りの記述にも、「行きたい場所の資料を作成するのがワクワクして面白かった。画像を使うことで、どれだけ綺麗な場所で、面白い場所かを伝えやすかった。」「みんなの行きたい場所とか知れてよかった。わかりやすかった。」等、前向きな振り返りが多かった。ICTを活用することで、生徒は実際の写真や情報に容易にアクセスすることができ、それにより外国語学習の興味・関心が大いに高まったと実感した。

今後は、発表を動画で撮影し、それを記録として残すことで、生徒が自身の発表を振り返り、自己表現の改善につなげる活動を検討している。また、今回は身近な題材を扱ったため、個人で作業をさせたが、社会的な話題を題材とし、まとまった分量の原稿を作成させる場合は、グループで共同作業をさせてもよいと思っている。